

春の台湾研修 2024 参加報告：

台北医学大学

The Study Program for 2024

実施期間：2024 年 3 月 4 日 – 15 日



2024 年 11 月 22 日

沖縄県立看護大学

国際交流室運営委員会

目次

はじめに	iii
学生所感	p.1-p.6
・ R.U.(a)	
・ R.U.(b)	
・ H.K.	
・ I.Y.	
・ M.O.	
(学籍番号順)	
※表記は参加者の氏名のイニシャル	
資料	p.7-p.15
1. 写真	
2. プログラム（日程表）	

＜2023年度国際交流室運営委員会メンバー（敬称略）＞

佐伯宣久（委員長）

山口賢一（副委員長）

大城真理子

知念直樹

山城綾子

浦添美和

知念久美子

薩久率政 (一)

はじめに

台北医学大学（以下「TMU」）との学術交流協定が締結されたのが 2011 年。2019 年 7 月には本学で 2 度目の受け入れ研修を実施し、6 名の TMU 学部生が研修に参加した。COVID-19 の感染拡大のために対面での研修実施が困難となったが、TMU とは学部生のオンライン国際交流などを通して良好な関係を維持した。2023 年 3 月、ようやく対面研修が再開となり、本学の学生 5 名が TMU 研修に参加した。これは、本学の学生が参加した初めての TUM 研修である。2024 年 3 月の研修は、本学の学生が参加する 2 回目の TMU 研修となり、5 名の学部生が参加した。

2023 年の TMU 研修には、視察も兼ねて本学の教員 1 名が引率として同行したが、2024 年の研修には引率教員は置かず、参加学生は準備段階から独立心を持って、自主的に行動していた。ホテルや航空券の手配、プログラム初日の大学紹介に向けた準備なども率先して行っており、教員としては心強い限りであった。2024 年 7 月には 12 名の台湾学生を本学の研修に受け入れたが、その際も積極的に台湾学生との交流をしていた。国際的視野を持った人材として、将来の活躍が楽しみである。

最後に、本学学部生の TMU 研修参加にご助力いただいた皆さま方にお礼を申し述べたい。研修の企画・運営にご尽力いただいた TMU の教職員の皆さま、学内での参加募集から準備・サポートしていただいた本学の教職員、特に国際交流室運営委員には感謝を申し上げたい。また、末筆ではあるが、参加学生への英語レッスンとプレゼン準備にボランティアでご助力いただいた Monica Aguilar-Scion 氏への謝辞を表して本稿を閉じたいと思う。

国際交流室運営委員会
参加報告編集担当
山口賢一

学生所感

【R.U.(a) (参加当時2年次)】

(1) 研修での学び&自分の成長

台北医学大学 (TMU) 研修では、留学先の台湾の学生と交流する機会はもちろん、同じプログラムに参加する日本の他大学の医療系学部の学生と授業を共にしました。参加している学生は2年生、3年生が多く、各大学でどのようなことを学んでいるのか、お互いで意見交換をすることが楽しかったです。プログラム参加者一人一人に台湾の学生サポート（バディ）がつき、心強い存在でした。研修中は英語でやり取りをすることが多く、話す際は文法が間違っていないか、ちゃんと伝わるか不安がありました。英語を話そうとする意欲やジェスチャーなどでコミュニケーションを取るように心がけました。台湾の学生は英語を流暢に話せる方が多く、こちらが伝えたいことを何となく汲み取ってください、優しく対応していただきました。授業で分からぬこと、聞き取れなかつたことも教えてくださいました。私は英語を話すことによても苦手意識がありました。文法は間違っていてもいいから、単語だけでも話してみよう、伝わって欲しいという意欲で、コミュニケーションを取ることができました。普段英語を使い慣れていない分、不安も大きかったです。思い留まらずに、思い切って話してみようという心が大切だと思いました。

(2) 現地で困ったこと & 来年度の研修への提言

宿泊したホテルが地下にあり、換気が不十分のため空気が悪く、もともと掃除もちゃんとされていない感じでしたので、台湾での生活に不慣れだった1週目はしんどかったです。洗濯も何回かしましたが、干す場所も限られており、換気ができないので、生乾きなことも多かったです。2週目は慣れましたが、ホテル選びは慎重にした方が良いと思いました。

TMU研修では3回ほど、現地の病院見学をすることができます。それまでの本学の実習で大きな病院に行った経験がなく、比較が難しかったですが、台湾の病院で行われている医療を現地の医療者から英語で説明を受けました。しかし、未履修範囲の内容の上に、英語が聞き取れずに理解できないことが多い、1. 2年生には高度な内容だと感じました。聞き取りができないと説明内容の理解が及ばないため、リスニング力を事前に鍛えておいた方がいいと思います。

2週間という長い期間なので、学校だけでなく、放課後や休日にゆったりと観光もできると思います。海外で2週間も滞在しながら学べる機会は、学生時代だからこそ経験できると思うので、台湾で経験したことをこれから学ぶ看護に紐づけられたら良いと思います。

【R.U.(b) (参加当時 2 年次)】

(1) 研修での学び&自分の成長

台湾の病院見学を通して、台湾の病院は情報がデジタル化されているため、患者の情報が素早く正確に収集しやすいと感じました。ナースステーションでは患者情報や医療情報などを大きな画面で見ることができ、医療者間で効率的に情報共有することができる仕組みになっていました。また、患者の病室の中にも、その患者に関わる情報が記載されているモニターが設置されていました。その画面上には名前、性別、年齢、担当医師と担当看護師、食事や摂水の状況、治療の制限の詳細、褥瘡の有無などの情報が記載されていました。そのモニターを通じて、医療者間ですぐに患者の状態を把握することができるため便利であると感じた一方、個人情報があまり守られていないのではないかとも感じました。

台湾の病院はマスクさえしていれば簡単に出入りでき、患者の病室にさえも簡単に出入りできることに驚きました。日本では来院者に対して体温の測定や親族の入室制限などがありますが、感染対策は日本よりも緩いと感じました。

自分が成長できたことは、自分から積極的に英語を使えるようになったことです。私は、外国人観光客が多く来る飲食店でアルバイトをしており、外国人と話す機会があります。台湾研修へ参加する前は、外国人との接客の際、最小限の単語やジェスチャーを使用して対応しており、積極的な会話を避けていました。しかし、研修後の接客では、自分から質問をしたり、単語のみではなく文で話しかけたりすることができるようになっており、自分でも驚きました。外国人とコミュニケーションをとることを楽しいと感じることができるようになりました。研修で他の学生が英語で会話をしているのを間近に見ており、英語を多く聞く環境にいたため、刺激を受けて成長することができたのではないかと感じています。このような環境に身を置くことは、自己の成長にとって重要だと感じました。

(2) 現地で困ったこと & 来年度の研修への提言

研修中に 1 番困ったことは、英語が聞きとれなかったことです。研修の講義や説明、講師との会話などは全て英語を使って行われるため、ある程度英語を聞き取ることができ、話の内容が理解できないと、学べる量が減ってしまうと感じました。その他に現地で困ったことは特にありませんでした。台湾には日本のコンビニエンスストアや薬局などが多くあり、日本の商品も多く取り揃えられていたため、もし風邪をひいたり日本食が恋しくなったりしても、現地でほとんど取り揃えることができるだろうと感じました。また、参加学生一人一人に現地の大学生がバディとしてついてくれるため、困ったことがあれば聞くことができ、安心でした。移動手段としては電車がほとんどだったが、アプリを使用すれば問題なく移動できました。電車やバスで使用できる Easy Card という乗車カードはとても便利だと感じました。

来年度の研修への提言として、私は英語での講義が半分以上聞き取れなかっただため、講義内容が全然理解できないことが多く、友達に聞いたり曖昧に理解してしまうことが多く

ありました。そのため、研修に行く前に英語のリスニングやスピーチの練習をするなどして、英語に慣れておく必要があると感じました。また、現地の複数の病院見学に行き、医師や看護師の説明を聞きながら、実際の病院内の施設や設備などについて学びましたが、私たちは1、2年生での参加だったため、まだあまり実習で病院に行ったことがなく、日本の病院や医療の特徴をあまり分からぬまま台湾の病院について学ぶことになりました。そのため、日本と台湾の病院の違いが分からず、台湾の特徴を理解することが難しかったです。したがって、台湾の医療について深く学ぶためには、病院実習を多く経験している3、4年生が適しているのではないかと感じました。しかし、英語に触れる環境に身をおくため、語学を学ぶ場としてどの学年で参加しても意義があると考えます。

【H.K. (参加当時1年次)】

(1) 研修での学び&自分の成長

私の台湾研修での一番の学びは、台湾の医療を知れたことです。講義では台湾の充実した産後ケアや災害時の看護などについて多く学ぶことができ、さらにプログラムには講義だけでなく実際に病院を訪れて説明を受けられる機会が多く組まれており、台湾の医療についてこの目で見て学ぶことができました。台湾の病院では日本よりもペーパーレス化・デジタル化が進んでおり、ナースステーションにある大きなスクリーンで全ての患者の情報を見ることができ、ベッド近くに設置されたパネルにはこの患者の状態が一目でわかるように記号化されて表示されているなど、とても便利でわかりやすく、良いと思える点がたくさんありました。一方でプライバシーや個人情報の保護、ジェンダーへの配慮は甘いと感じる点が多くありました。情報として学ぶだけではイメージしにくいことを、実際に見学することで身をもって学ぶことができたため、とても有意義なプログラムでした。

私が台湾研修を経て成長できたと感じる点は、講義に対する参加意欲だと思います。このプログラムでは、千葉や大阪、金沢など他大学の学生と共に学ぶため、積極的な参加態度を間近で感じ、自分もしっかりしなければいけないと気が引き締まる場面が何度かありました。特に印象に残っているのが、言語が英語であることをものとせず、他大学の学生が積極的に質問をしていたことです。普段の学校生活では「質問のある人」と言われても手を挙げる学生は少ないですが、このプログラムでは、思ったことをスラスラと英語で質問できる人、頑張って翻訳機を使って質問している人、やってみたい人と言われて真っ先に名乗り出る人などがおり、とても刺激を受けました。結局私は全体の場で発表をすることはありませんでしたが、講義や説明を受けてメモに残し、分からることは周りに聞いて理解を深めることができました。

(2) 現地で困ったこと & 来年度の研修への提言

私が現地で困ったことは特に思い浮かびませんが、強いて言えば、現地のローカルなお店では英語が分からぬ人が多いことです。観光地の店員は英語どころか日本語を話せる

人も多い印象を受けましたが、ローカルなお店だと英語が通じず、翻訳機を使って中国語でやり取りをする必要があるため、意思疎通が難しかったです。

来年度への提言として、今回本学からの参加した学生は1・2年生でしたが、プログラム参加者は全体的に3年生が多かったので驚きました。募集の際に例年の参加状況を少し記載したり、募集後にできる範囲で参加者の情報を共有したりできると良いと思いました。ただ、参加者は皆優しくて、1年生の立場でも仲良くなることができ、分からぬ内容も教えてもらい、充実した研修になりました。個人的にはこの学年（1年次）で参加するのも大いにお勧めしますし、他の参加者について全く知らなかったのもサプライズ的因素があって面白かったため、今年度のやり方と同じでも大きな問題はないとも感じています。

最後に、台湾研修では観光もしながら台湾のことを学べ、日本の中大の学生とも交流を持て、とても有意義で充実した経験ができました。来年度以降もぜひ継続していただき、多くの学生に参加してもらいたいと心から思っています。

【I.Y.（参加当時1年次）】

（1）研修での学び&自分の成長

台湾研修を通して私が学んだことは、自分から積極的に行動することの大切さです。実際に台北医学大学（TMU）で講義を受けたり、病院見学に行ったりしたときに、現地の方が独特的なアクセントで英語を速く話されていたことや、大学ではまだ習っていない専門的な知識を必要とする内容であったことなどが要因で、あまり聞き取ることができない場面がありました。あるいは、発音を聞き取っていても、翻訳した単語の意味が分からず、話の内容がつかめなかつたこともあります。プログラムの最終日に今回のプログラムを通して学んだことを発表する必要があったため、わからないままで放置するという選択は出来ず、このプログラムに参加していた他の大学の方に聞くことできちんと理解することができました。今まで「あまり親しくない人に聞くのは申し訳ない」あるいは「こんなことも分からぬのかと思われたら恥ずかしい。」という考え方から、他の大学の方に聞くことが出来なかつたと思います。しかし、このような状況下に置かれたことで、自分から積極的に行動することができるようになりました。

成長できたこと感じることは、英語を話そうとする姿勢が身についたことです。TMUの生徒が1対1でバディとしてついてくれており、台湾観光に連れて行ってくれたり、大学内の学食と一緒に食べたりする機会があり、その時に英語でコミュニケーションを取っていました。同世代の学生ということもあり、すぐに友達になることができ、あまり緊張せずに英語で話すことができました。また、文法が間違っていてもこちらの意志をくみ取ろうしてくれたので、気軽に話すことができました。

（2）現地で困ったこと&来年度の研修への提言

現地で困ったことは、ローカルな店だと英語が通じないので、意思疎通を図るのに苦労したことです。プログラムに参加していた日本の他の大学生は学年が3~4年生の方が多く、専門知識も豊富に持っており、その中で1年生の自分が同じ内容を学ぶのはとても負担に感じました。また、講義についていけるのかとても不安でした。

来年度の研修への提言としては、プログラムの最初に学校紹介をする時間があり、その原稿をモニカさんに手伝って頂いたのが本当に心強く、有り難かったので継続してほしいということと、反対に最終発表のときは自分達だけで原稿を仕上げたのでとても不安だったため、ラインやメールなどを通して添削をしてほしいということが挙げられます。また、他の大学からは引率教員が最初の数日間に何名か来ていたので、研修に参加する学生と話し合って引率者をつけるかどうかを決めるときも良いと思いました。そして、バディと会話をするときにもう少しスムーズに話せたら良かったなと感じたため、研修に行く前に日常会話の英語のレッスンを取り入れても良いのではないかと思いました。

【M.O. (参加当時1年次)】

(1) 研修での学び&自分の成長

私たちは3/2~3/15の二週間の台湾研修に参加し、現地での生活や学校での講義から様々なことを学ぶことができました。その中で特に印象に残った学びは二つあります。一つ目は、台湾の医療に関することです。研修に参加するまで私は、台湾よりも日本の医療の方が進んでいるのではないかと想像していました。しかし、実際に台湾の病院を見学してみて、想像以上に環境が整っていることに感服しました。患者のカルテの電子化だけでなく、ナースステーションの中で患者さんの検査の予定や転倒、褥瘡の有無などの状態を知ることができ、看護師間での共通理解に繋がる電子黒板が設置されていました。他にも日本よりも保険証の実用性が高く、血圧を測るときに保険証をスキャンすることで血圧のデータが入力され、看護師が確認できるようになっていました。また、病院を紹介してもらう際も紹介状がなく、保険証一つで情報の引き継ぎができ、双方の負担を減らす画期的な仕組みであると思いました。しかし、電子化が進んでいる一方で、台湾の個人情報の取り扱い方が気になりました。見学に訪れた病院のフロントには、医師の出身校から当日の勤務状況、そしてどの部屋に誰が入院しているかが分かる情報などが閲覧できるタッチパネル・モニターが設置されていました。来客者はこのモニターを見て、例えば産婦人科であれば女医の先生の診察を希望するのであれば、情報を検索して希望通りの先生を予約することができます。また、お見舞いに訪れた際、逐一看護師に病室の場所を聞かなくても、簡単に検索をして場所を確認することができます。しかし、どの患者さんがどの部屋にいるという情報は悪用される可能性もあり、個人情報の取り扱いの部分で問題がありそうだと感じました。

研修中の学びの二つ目は文化の違いです。医療システムが進んでいる一方で、トイレットペーパーをそのまま流してはいけないことや、魚や野菜を露店販売しているなど、衛生面で少し気になる場面もありました。また、台湾には頻繁に外食をする文化があり、お店が凄く充実しており、夜市などの食べ物街が至る所にありました。沖縄そばのだしに似ているスープや三枚肉に似た肉を乗せたルーローハンなど、沖縄の郷土料理と似ているメニューも多々目にしましたが、このような親近感を感じたのは、沖縄と台湾との距離が近く、また歴史的に中国との交流があるという文化的共通点が理由ではないかと考えました。移動手段については、バイクや公共の自転車や MRT という地下鉄を利用している人が多く、沖縄のような車社会ではないため、運動不足になりにくいところは本土と似ていると感じました。

（2）現地で困ったこと & 来年度の研修への提言

先ほども述べたトイレ問題やローカルな店で英語が通じないなど、多少の問題を感じることはありましたが、特にこれといった困難はなく無事に楽しく過ごすことができました。この研修に参加するまで、日本は台湾よりも進んでいる部分が多いのではないかと想像していましたが、病院の電子化や交通の利便性など、日本よりも優れたテクノロジーや社会システムがたくさんありました。また、近年話題になっているジェンダーに配慮したトイレが設置されているなど、多種多様な人たちに配慮しており、とても暮らしやすい国だと感じました。現地の学生やお店の方々とたくさん触れ合う機会がありましたが、どの方も私たちにすごく親切に接してくださいました。放課後には、現地の学生や他の研修参加学生とローカルなお店や観光地など、様々な場所を訪れることができ、14日間の研修期間中、毎日本本当に充実した時間を過ごすことができ楽しかったです。初の海外渡航であり、また一年生で医療知識がほとんどない状況で不安もたくさんありましたが、台湾の医療を直接自分の目で見ることができました。海外での体験で改めて日本の良さを実感し、また異文化や日本以外の地域を好きになるいい機会となり、とても良い経験ができる参加してよかったですと心の底から感じています。

資料 1

○写真

【台北医学大学キャンパスと研修の様子】





【台湾市内の夜市】



【台湾スイーツに中華料理】





【台湾のランドマーク「台北101】】



【観光】



猫空ロープウェイ



十分でランタン飛ばし



九分



士林慈誠宮

【プログラム修了】



資料 2

○プログラム（日程表）

Program Schedule

The Study Program for 2024 March Inbound Students at College of Nursing, TMU

(2024/3/4-2024/3/15)

Week	Day	Time	Schedule	Location	Speaker(s) / Host(s)
Week One	3/4 (Mon)	10:00 12:00	● Opening Remarks ● Program Briefing by the Director ● Introduction to College of Nursing at TMU & Taipei Overview ● Introduction to Inbound Universities (about 10 minutes by each group)	Conference room, College of Nursing, CMB 13F 護理學院大會議室	To be announced
		12:00 13:30	Welcome Lunch	CMB 13F Lobby 護理學院大廳	
		14:00 16:00	Lecture: Age-Associated Sarcopenia	Conference room, College of Nursing, CMB 13F 護理學院大會議室	Prof. Shu-Chun Lee 李淑君老師
	3/5 (Tue)	10:00 12:00	Assemble at 09:50 CMB 13F Lobby Visit Taipei City Emergency Response Center	Taipei City Emergency Response Center 臺北市災害應變中心	Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師
		14:00 16:00	Lecture: Long-Term Care in Taiwan	Medical Laboratory Science and Biotechnology Building 2F Classroom 醫檢大樓 2 樓多功能教室	Dr. Yen-Ben Kao 高燕彬醫師
	3/6 (Wed)	10:00 11:30	Assemble at 09:50 - CMB 13F Lobby Taipei Medical University Hospital Tour	TMUH 附設醫院	Director Shu-Liu Guo 郭淑柳主任
		12:30 14:30	Lecture: The Trends in Wound Management	CMB 15F Conference Room 1 後棟 15 樓第一會議室	Prof. Yu-Lin Wu 吳宥霖老師
	3/7 (Thu)	10:00 12:00	Lecture: Virtual Reality Home Environment	Xing-Chun Building 1F VR LAB	Prof. Li-Fong Lin 林立峯老師
		14:00 16:00	Assemble at 13:30 - CMB 13F Lobby Wan Fang Hospital Tour	Wan Fang Hospital 萬芳醫院	Director Doresses Liu 劉淑芬主任
Week Two	3/8 (Fri)	10:30 12:00	Lecture: Integrated care in Taiwan: Acute, Post-Acute, & Long term care	CMB 15F Conference Room 2 後棟 15 樓第二會議室	Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師
		14:00 16:00	Free time for city tour/sightseeing	Free time for city tour/sightseeing	Free time for city tour/sightseeing
Week Two	3/11 (Mon)	10:00 12:00	Lecture: Gerontechnology and Design Thinking	Conference room, College of Nursing, CMB 13F 護理學院大會議室	Prof. Dorothy Bai 白若希老師

Week	Day	Time	Schedule	Location	Speaker(s) / Host(s)
		14:00 16:00	Assemble at 13:50 - CMB 13F Lobby Campus Tour 14:00-14:50 Library Tour 15:00-16:00 History Gallery	CMB 2F Library 圖書館 CMB (Front Building) 1F History Gallery 校史室	
		10:00 12:00	Assemble at 09:30 - CMB 13F Lobby Visiting the Rehabilitation Department: Lecture, Extracorporeal Shock Wave Therapy, Mirror Therapy	Department of Rehabilitation, SHH 雙和復健醫學部	Prof. Chun-De Liao 廖峻德老師
	3/12 (Tue)	14:00 16:00	Shuang Ho Hospital Tour	Shuang Ho Hospital 雙和醫院	Director Chiu-Kuei Li 李秋桂主任
		10:00 12:00	Assemble at 09:30 - CMB 13F Lobby Visit to Taiwan Nurses Association	Taiwan Nurses Association 5th and 9th floor	Prof. Fu-Chih Lai 賴甫誌老師
	3/13 (Wed)	14:00 16:00	Lecture: Introduction to Chinese Medicine & Visit Chinese Medicine Clinic	CMB 15F Conference Room 1 後棟 15 樓第一會議室	Dr. 蘇柏璇醫師
		10:00 12:00	Assemble at 09:30 - CMB 13F Lobby Visiting the Assistive Technology Center	New Taipei City Assistive Technology Resources Center 新北 市輔具資源新店中心	Prof. Li-Fong Lin 林立峯老師
	3/14 (Thu)	14:00 16:00	Lecture: Introduction to Doing-The- Month for Postpartum Mothers in Chinese Culture	CMB 15F Conference Room 2 後棟 15 樓第二會議室	Prof. Evelyn Lin 林淑玲老師
		10:00 12:00	Final Presentation and Evaluation (about 10 minutes by each group)	CMB 15F Conference Room 2 後棟 15 樓第二會議室	To be announced

TMU=Taipei Medical University

CMB=Comprehensive Medical Building (Rear Building)

TMUH=Taipei Medical University Hospital

WFH=Wan Fang Hospital

SHH=Shuang Ho Hospital